

3/8「原発のない福島を！県民大集会」に参加して

福岡県退職教職員協議会 福岡支部 井形敏子

集会は、郡山市・いわき市・福島市の三会場で同時に持たれた。私たちはメイン会場である郡山市の「ユラックス熱海」に参加した。もより駅に着いた時は吹雪のなかで、九州では経験したことのない横なぐりの白い風が吹きつけていた。東北の地であることを実感した。「あの日」も雪が降り寒かったといわれているが、取るものもとりあえず避難した人々の肌身にささる寒さはいかばかりであったことだろう。3000人収容の会場は県外からの参加者であふれ、通路にも座っていた。たくさんの車が駐車場に並び、重そうに雪をかぶっていた。中にはつららが下がっているものもあった。

集会では、大江健三郎さんの連帯の挨拶や5名の現地の方の発言があった。5名の方はそれぞれに置かれている場でいま感じていることを切々と語られ、原発事故のもたらしたもの・それに対する東電・政府の対応のひどさ、原発事故は続いていることを告発する内容のものだった。特に最後の平和大使の高校生の発言は、原発事故による放射能禍を次の子ども達へ残した大人達への鋭い突きつけがあった。私たちはこれに応える責任がある。

翌日、「フクシマ被災地フィールドワーク」に参加した。車中でも線量は高かった。除染した土や枯葉を入れた黒や青の袋が積み上げられているのを目にした。家屋の側にも多く置かれていた。置きざらしだという。南相馬市の萱浜地区の津波被害も見た。コンクリートの頑丈な防潮堤に立って、その左側からずっと無残に流れ去っているのを目の当たりにして津波の威力に戦慄した。平地はすべて削り取られ何もなく、右手高台に家の屋根が見えるのでそこは無事だったかと思ったが、近づくと柱に屋根だけであった。

八日の夜は福島県退教の方々と交流出来た。仮設住宅に避難を余儀なくされている方の話も聞かせて頂いた。短時間であったが福島県教組を訪問し、持参した福岡市退教の寄せ書きもお渡し、実状もお聞きした。お忙しい中これらの機会を持って頂き、福島現地に少しでも多く触れることが出来たことを感謝している。安倍政権は、原発推進を明言し、再稼働させようとしている。なかでも九州電力が最有力候補とされているが、再稼働を絶対に許してはならないと参加してなお強く思った。報告会など出来るだけ多く伝えていきたい。